

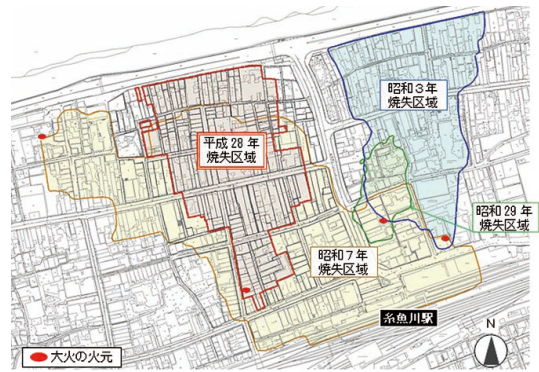
防災のヒント 14

糸魚川市駅北大火のような災害は、いつでもどこで起きてもおかしくありません。いざという時に自分の身を自分で守れるように、また、少しでも災害を防ぐことができるように、日頃から防災知識を身につけていきましょう。

大火の歴史

糸魚川市は、過去に度重なる大火を経験しています。昭和に入ってから昭和3年、7年、29年と大火に見舞われており、特に、今回の駅北大火は、昭和7年に380棟を焼失した大火と焼失範囲が重なるところが多くなっています。この大火後に再建された木造家屋や店舗が、まちなみを形成していましたが、出火当日の強風に加え、幅員の狭い道路に面して建物が密集していたことが、延焼拡大の要因となっています。

糸魚川市史に記述されている大火と当時の対策を紹介します。

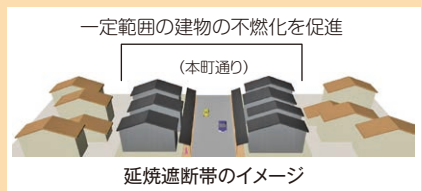


昭和3年、昭和7年、昭和29年、平成28年大火焼失区域図 (糸魚川市消防本部作成)

糸魚川市の大火発生年と焼損建物の棟数

江戸	宝暦 3 年	13 棟	1
	安永 6 年	525 棟	2
	文化 3 年	306 棟	
	文化 9 年	27 棟	
	文化 11 年	508 棟	
	文化 13 年	744 棟	3
	文政 9 年	600 棟	
	天保 5 年	548 棟	
	明治 10 年	458 棟	
	明治 37 年	459 棟	
明治	明治 41 年	42 棟	
	明治 44 年	503 棟	
	昭和 3 年	188 棟	
	昭和 7 年	380 棟	
昭和	昭和 29 年	42 棟	
	平成 28 年	147 棟	4
平成			

- 宝暦 3 年 (1753) 火災の翌年 10 月になっても家作(再建)をしない者に対して、当時の糸魚川藩役所から「空地のままでは見苦しいので、生垣だけでも通り沿いに設けよ」との命令が出された。
- 安永 6 年 11 月 (1777) 陣屋(藩役所)も焼けたとあるが、翌年の正月 12 日には、「雪消えを待って、表通りにはピッシリ家を建てろ、世間へ対しても外聞にかかわるから、空き屋敷のないようにせよ」との命令が出された。
- 文化 13 年 2 月 (1816) 二間(3.6m)の橋詰の道路幅を両側へ3尺5寸(1.05m)ずつ広げることや、町の家並みについては1尺や2尺ほど屋敷の幅を狭めてでもまっすぐにして、通り沿いに庇を揃えるよう命令が出された。
- 平成 28 年 12 月 (2016) 駅北大火 平成 29 年 8 月に駅北復興まちづくり計画を公表。本町通り沿いに燃えにくい建物を建て、道路幅員と合わせた延焼遮断帯を形成することで、その他の地域に燃え広がらないようにしている。



「こども消防隊の訓練に密着！」

8月1日、令和2年度こども消防隊入隊式が行われました。3年目となる今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年より3か月遅れてのスタート。入隊式には8人が参加し、小林正広消防長から元気づけ隊員証を受け取った後、消防車両の見学と規律訓練を行いました。



Vol.66からこども消防隊のインタビューを掲載します！

Season3
7回目

月刊
おかわさんぽ
第03歩！
「いとよ広場」



8月後半、まだまだ暑い日が続きますね。今回は、駅前通りと本町通りが交差する場所にある「いとよ広場」に行きました。噴水があり、涼を感じることができます。また、糸魚川のシンボルでもあるヒスイの原石が置かれていてめずらしい。ひんやりスポットで一休みしませんか。

大火復興集落支援員 岡尾優太